

# サイハイラン

*Cremastra appendiculata*

ラン科

## 名前の由来

サイハイは、細く長く切れ込んだ花の様子を、軍陣を指揮するのに使った采配にたとえて名付けた。ランは漢名「蘭」の音読み。漢字名：采配蘭



サイハンラン

## 形態的特徴

高さ30～50cm。葉は先が尖った楕円形で3本の脈が目立ち、根元から通常1枚のびる。花の時期に見られる葉は、越冬した常緑の葉であるため、少ししおれている。花は紅紫色

でやや肉質、円筒形で先はあまり開かず少し下向きに咲く。多数の花が、茎上部にやや一方にかたよってつく。

類似種：特にない。

## 生育環境・分布

やや湿った林内に生育する。

分布：国外分布は、南千島・樺太南部・朝鮮南部・中国・台湾・ヒマラヤ。

国内分布は、北海道から九州。北海道内分布は、全道。

十勝地方では、やや湿った林内で見られる。



サイハイランの葉は秋に出て、緑のまま越冬し、夏前に枯れる

## 生活史

開花時期：6月～7月中旬。開花までの年数：不明

寿命：多年草。

## 興味深い話

■サイハイランの根元から伸びる葉は、秋に出て、雪の下で枯れずに越冬し、翌年初夏の開花のころに枯れはじめ、夏前に枯れる。花と一緒に見られる葉は、実は花が咲く1年近くも前から展開している葉ということになる。

■茎の基部の膨らんだ部分は鱗茎という一種の貯蔵器官で、嚙むと粘りと甘味があり、アイヌの人々はこれを生食のほか、焼いたり煮たりして魚油や筋子をつけて食べたという。

■足寄（アイヌ文化では釧路地方の文化圏）などのアイヌ

語では「イマッコトウク」という。

■他地方ではニマッコトウク（歯・に・つく）と呼ばれ鱗茎をかむと粘って歯につくことからという。

■鱗茎の粘着性を利用して、漆器や磁器の割れたところを継いだという。

■鱗茎は薬用にも用いられ、粘滑剤としてひび、あかぎれに効果があり、胸やけ、胃腸カタルにも用いられる。

## 他生物との関わり

花には虫が訪れる。

## 配慮事項

生育している環境全体が重要である。

## 生活サイクル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開花期			■									
結実期				■								

## 参考文献

「改訂版 牧野新日本植物図鑑」牧野富太郎 北隆館 1989

「北海道植物図譜」滝田謙讓 自費出版 2001

「日本の野生植物 草本Ⅰ」佐竹義輔・大井次三郎 他 平凡社 1982

「アイヌ植物誌」福岡イト子 草風館 1995

「北海道薬草図鑑 野生編」山岸喬 北海道新聞社 1992

「図説 花と樹の大事典」木村陽二郎・植物文化研究会・雅麗柏書房 1996

「知里真志保著作集 別巻Ⅰ 分類アイヌ語辞典 植物編・動物編」知里真志保、平凡社 1976

魚類

底生動物

両生類  
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種)  
草花

(外来種)  
草花

哺乳類

(鳥辺)  
鳥類

(葎原樹林)  
鳥類